

「人間が地球の覇者でなくなる日が来るかもしれない」そんな恐ろしい見出しに目が留まった。史上初めて人知を超える人工知能（AI）が現れつつある。考えたり、判断したりする行為を機械に肩代わりさせる結果、人間は衰える恐れがあるというのだ。脳は使わなければ、しだいに機能が低下する。廃用性委縮で想像できない将来ではない。

生成 AI の ChatGPT に今年の医師国家試験問題を解かせたところ、正答率が合格ラインを超えたと言う。知識レベルでは“立派な医師”である。但し、条件があって画像のない問題で日本語を平易な英語に翻訳させ、さらに問題の種類別に入力を調整した。かなり人手をかけてからの回答で正答率は 78% であった。まだ画像認識は不十分なので画像問題は除いたと言うがそれを含めた場合でも合格ラインに近い得点だったらいい。いずれにしても進化は止まらないであろう。

8月号は緑陰随筆が楽しい。それぞれ臨床医としての第一線を退き、またはそれに近い立場からの投稿で肩の荷がおりたのか、日頃気にしなかった事象や物事に目を止め、深みのある内容に思わずうなずきながら拝読した。含蓄があり、人間味あふれる内容であった。萩原先生は母の介護のため後悔を残しての閉院であり、高齢者社会の課題は医師といえども回避困難であることを痛感した。状況は異なるが自身に重ねて読ませてもらった。

勤務医担当理事連絡協議会の QR コードを用いた「医師の働き方改革について」を視聴した。斬新な情報提供の仕方である。現場では 2024 年から始まるこの歴史的改革に戦々恐々としており、楽観論から悲観論まで幅広く議論されているところであり、時短計画作成から登録まで総論的に良く纏まっていて、一見に値する。

さて、人口統計は統計の中でも最も信頼性が高いと言われる。外れる確率がとても低い。日本は少子化で生産年齢は減少し、高齢化で医療需要は増加する。そして多死社会を迎える。今後は急性期一辺倒ではなく、医療と介護を含めたシームレスかつ複合的ニーズが一層高まるはずである。とても単純な理論である。

医療も含め人手不足対策の一助が DX の推進となる。医師の働き方にも AI がどんどん入ってくるであろう。しかし私たちは仮想と現実の区別を失ってはいけない。人間は生身である。医師なら 1 度は読んだことがある手塚治虫の「ブラックジャック」。その中に「U-18 は知っていた」という投薬も検査も手術もたった 1 台のコンピューターで管理された病院の話がある。会員には是非再読をお勧めする。

ChatGPT の開発者アルトマン自身が言っているようにその恩恵は限りなく大きい一方で、「AI は人類絶滅のリスク」とも言っている。AI があらゆる医療分野に入り込むが、常に想定外のリスクをはらんでいる。

畢竟、その死活の責任はわれわれ人間自身にかかっている。

広報委員 久貝 忠男